

平成 2 6 年 6 月 2 5 日現在

機関番号：24501

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2013

課題番号：24820035

研究課題名（和文）非英語圏、特に「アジア」、「日本」におけるシェイクスピアの上演研究

研究課題名（英文）Shakespearean productions in 'Asia' and 'Japan'

研究代表者

エグリントン みか（Eglinton, Mika）

神戸市外国語大学・外国語学部・准教授

研究者番号：50632410

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000 円、（間接経費） 690,000 円

研究成果の概要（和文）： 現在進行形ゆえに把握し難く、アカデミズムでは取り上げられることが少ない2000年から現在に至るまでの、日本のシェイクスピア翻訳・翻案演劇上演に焦点を当て、中屋敷法仁義や矢内原美邦といった演劇人へのインタビューを含む公的な資料収集を行なった。

非英語圏・非欧米圏に生きる日本人が行うシェイクスピア作品の上演を、「アジア」、そして「日本」なるものの定義を再検討しながら、重層的な文化・社会的コンテキストの中から創造されたハイブリッドなものとして読み解くことにより、これまで西洋中心であったシェイクスピア上演研究のパラダイムを、東の視点から軌道修正すること、「Re-orienting」することを試みた。

研究成果の概要（英文）： In this project, I researched a wide range of material on Shakespearean translations and adaptations performed on Japanese stages from the year 2000 until 2013. This included interviews with Japanese emerging playwrights and directors, such as Norihito Nakayashiki and Mikuni Yanaiharu.

By re-reading Shakespearean productions made in non-English speaking spheres and re-defining the various meanings of 'Asia' and 'Japan', I tried to 're-orient' the west-centred Shakespearean productions from eastern viewpoints.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：英米・英語圏文学

キーワード：非英語圏 日本 アジア シェイクスピア パフォーマンス・スタディーズ 演劇 上演研究 日英比較演劇

1 . 研究開始当初の背景

シェイクスピアの上演研究は、1960 年代頃からシェイクスピア研究の傍系として、英米圏のジャーナリズムを中心に開始された分野である。初期の上演研究は、舞台写真や劇評などの言説を通して、「本場」英国の「正当な」上演作品を記録として残すことにあった。1977 年に出版された J. L. Styan の *The Shakespeare Revolution: Criticism and Performance in the Twentieth Century* は、それまで学問としては傍系、さらには邪道として軽視されてきた上演を、研究に値するものとして論じた点においても、革命的であったと言える。

1980 年代頃から、フェミニズムやポストコロニアリズム理論の影響を受け、シェイクスピアというアイコンが持つ家父長的、宗主国的、西洋中心主義的な権威を解体しようとする動きが顕著になっていった。研究対象はそれまで中心を成していた英国におけるシェイクスピアの舞台から、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドといった英国以外の周辺の英語圏へ、さらに非英語圏のヨーロッパ、アジア、アフリカ、南米、中東へと拡張していった。非英語圏のシェイクスピア上演に焦点を当てた Dennis Kennedy が編纂した *Foreign Shakespeare* (1993) を筆頭に、1990 年代以降は、グローバリゼーションが進む昨今の文脈において、個々のローカルな場から生まれる翻訳・翻案作品、あるいは異文化が接触する国際共同作品を、パフォーマンス研究の手法を援用し、グローバリズム、インターカルチュラルリズムといった視点から読み解くことが主流となってきた。

「アジア」、また「日本」のシェイクスピアの上演研究も、この「外国」の「ローカル」なシェイクスピア研究の一端を担っており、1991 年に東京で開かれた非英語圏では初となる第五回国際シェイクスピア学会

を契機に注目を集め始めた。結果、1990 年後半から *Shakespeare and the Japanese Stage* (1988), *Performing Shakespeare in Japan* (2001), *Shakespeare in Japan* (2005) といった著作が出版されるようになった。よって日本のシェイクスピア上演研究は、ここ 20 年弱余りで発展した比較的新しい、それゆえに開拓の余地が多いにある研究領域と言える。

2 . 研究の目的

非英語圏の演劇実践者たちは、シェイクスピアという西洋古典の粋を自国の言語と文脈において再構築する際、内／外、東洋／西洋、オクシデンタリズム／オリエンタリズム、過去・伝統／近代・現代といった二項対立を意識せざるを得ない。グローバリゼーションに伴い、文化のハイブリッド化が進む昨今において、演劇実践者たちがこの二項対立に乗じるにせよ、拒むにせよ、結果として洋の東西にある差異か、その差異を超えるシェイクスピアの、ひいては西洋の文化的権威や普遍性なるものが強調されてしまうこともままある。

本研究は、非英語圏・非欧米圏に生きる東アジア人、特に日本人が行うシェイクスピア作品の上演を、「アジア」、そして「日本」なるものの定義を再検討しながら、重層的な文化・社会的コンテキストの中から創造されたハイブリッドなものとして読み解くことにより、これまで西洋中心であったシェイクスピア上演研究のパラダイムを、東の視点から軌道修正すること、英語の掛詞で言い換えれば「Re-orienting」することを目標に据えた。その際、現在進行形ゆえに把握し難く、アカデミズムでは取り上げられることが少ない、2012 年から現在に至るまでの演劇上演に焦点を当てた。

3 . 研究の方法

研究期間となった平成 24 年度 9 月から 26 年度 3 月末までの一年半、Dennis Kennedy and Yong Li Lan, *Shakespeare in Asia: Contemporary Performance* (Cambridge University Press, 2010) を筆頭とする、2010 年以降に出版された最近の「アジア」のシェイクスピアに関する研究書を精読しながら、演劇・パフォーマンス研究の動向を確認した。

平行して、日英、ひいてはアジア-ヨーロッパという洋の東西の演劇を比較しながら、日本と英国におけるシェイクスピア演劇に対する現地調査、インタビューを含めた資料収集を行って執筆した原稿を国内・国際学会で発表し、そこで得たフィードバックを元にさらに原稿を書き直すという方法で、論文を精鋭化していった。

劇場での現地調査をする際、静岡舞台芸術センターといった劇場、フェスティバル/トーキョーといった日本最大規模の演劇祭、Asian Shakespeare Intercultural Archives といったウェブサイトという各々の媒体において自ら翻訳に携わることで得た知見とヒューマン・ネットワークは、極めて有効に働き、私の研究を遂行するうえで必要不可欠なものとなっている。

さらに、出版部数 8 万部を誇る演劇雑誌『シアターガイド』と、日本で一番古い英字新聞 *The Japan Times* にて、日本と英国の演劇の紹介と批評を、日本語と英語で担当している。演劇に対する自らの興味と思考を、アカデミズムに留まらない、より公汎かつ多様な読者に向かって発信することは、演劇の社会的認知度を高めることを通して、演劇業界ひいては社会に貢献できるだけではなく、自らの思考をより平明簡潔に記す技術を磨く格好の機会となった。

4 . 研究成果

5 主な発表論文の項目に挙げたように、一年半の研究期間において、雑誌論文 4 件、図書 3 件、学会発表 5 件に加えて、8 本の戯曲翻訳、19 件の演劇レビューを執筆した。

主な業績を挙げると、平成 24 年度は、静岡舞台芸術センターの芸術総監督である宮城聡が演出した野田秀樹翻案『真夏の夜の夢』を、国立台湾大学で開かれたシェイクスピア・フォーラムや、チリで開かれた国際演劇学会(The International Federation for Theatre Research)などで発表を行った。学会発行の論文集などに発表原稿が掲載されたが、英語字幕を担当した自らの知見を交えた論考を平成 26 年の 10 月、11 月にそれぞれ開かれる日本シェイクスピア学会のセミナーと駒場東大にて Brian Reynolds を招聘して開かれる国際シンポジウムにて英語発表し、これらをまとめたものを、アカデミック・ジャーナルに投稿する予定である。

平成 25 年度は、劇団柿食う客を主宰し、「女体シェイクスピア」プロジェクトに取りかかっている若手劇作家・演出家中屋敷法仁の舞台を東京や大阪で観劇し、インタビューを取り、演劇雑誌『Act』の新聞・オンラインに発表した。取材で得た知見も用いつつ、日本語と英語で論文を書き上げ、日本シェイクスピア協会でのセミナー「シェイクスピアの『異性装』を再考する」と、ソウル国立大学で開かれた The International Shakespeare Conference で、それぞれ発表を行った。

2012 年に岸田戯曲賞を受賞した矢内原美邦作『前向き！ タイモン』についてもインタビューをとり、その結果を『Act』の新聞・オンラインに発表したものの、論文作成がやや遅れている。早急に論文をまとめ、アカデミック・ジャーナルに投稿する所存である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

1. エグリントンみか、『『女体』による男性性／女性性のパフォーマンス 柿食う客『悩殺ハムレット』試論』、『神戸外大論叢』第64巻、2014年3月、119-29頁。

2. エグリントンみか、『上演不可能性を昇華するメタシアター』バック・トゥ・バック・シアター『ガネーシャ VS. 第三帝国』、『シアターアーツ』57号(AICT 2013年冬号)122-23頁。

3. エグリントンみか、『原子力とメディアと芸術の相同性から内破へ』水戸芸術館 高嶺格の『クール・ジャパン』試論』、『シアターアーツ』56号(AICT 2013年秋号)60-63頁。

4. エグリントンみか、『‘The loss of our desire!’ *The Two Noble Kinsmen* における欲望とその喪失』、『神戸外大論叢』第63巻、2013年3月、95-105頁。

〔図書〕(計3件)

1. Mika Eglinton, ‘Hideki Noda’, ‘Yukio Ninagawa’, *A History of Japanese Theatre*, Ed. Jonah Saltz, Cambridge University Press, forthcoming in 2014.

2. エグリントンみか、『田槇道子』、『野広・小田健也』、『藤川健夫』、『穂高稔』、『大笹吉雄』、『岡室美奈子』、『神山彰』、『扇田昭彦責任編集』、『日本戯曲大辞典』、白水社、2014年内出版予定。

3. エグリントンみか、『劇場文化のポリティクスと英国地方——ブレア政権の多文化主義から‘Broken Britain’へ』、『河島伸子、大谷伴子、太田信好編』、『イギリス映画と文化政策 ブレア政権以降のポリティカル・エコノミー』、『慶応義塾大学出版会』、2012年10月、49-68頁。

〔学会発表〕(計5件)

英語発表

1. Mika Eglinton, ‘Estranging the Body in Norihito Nakahashiki’s All Female Shakespeare’, The International Shakespeare Conference at Seoul 2013, (National Seoul University, Korea, 2013.)

2. Mika Eglinton ‘Adapting to Post-March 2011 Japan: *A Midsummer Night’s Dream* adapted by Hideki Noda, directed by Satoshi Miyagi’ 神戸市外国語大学英文学会(UNITY, Kobe, 2012).

3. Mika Eglinton ‘Adapting to Post-March 2011 Japan: *A Midsummer Night’s Dream* at Shizuoka Performing Arts Centre’, International Federation for Theatre Research (Santiago, Chile, 2012).

4. Mika Eglinton, ‘Performing *A Midsummer Night’s Dream* in Post-March 2011 Japan’, the 6th NTU Shakespeare Forum (Taipei, Taiwan, 2012).

日本語発表

5. 『中屋敷法仁演出、女体シェイクスピアのジェンダー』、『セミナー「シェイクスピアの『異性装』を再考する』、コーディネーター：阪本久美子、第52回シェイクスピア学会(2013年10月6日 於鹿児島大学)。

〔その他〕

映像/演劇公演の翻訳(計8件)

1. Trans. Mika Eglinton and Andrew Eglinton, Tadasu Takamine, subtitles for *Japan Syndrome* (Kyoto and Mito versions) for Tadasu Takamine’s *Cool Japan* at the Art Tower Mito (22/12/2012~17/02/2013).

2. Trans. Mika Eglinton, Noda Hideki adapted, translated subtitles for Noda Hideki’s *A Midsummer’s Night Dream* at the Shizuoka Performing Arts Centre, Shizuoka, June 2011, Jan-March 2014 (directed by Satoshi Miyagi), A|SI|A Asian Shakespeare Intercultural Archive, www.a-s-i-a-web.org to be published.

3. エグリントンみか翻訳、ラビア・ムルエリサ・サーナー『33rpm』、字幕、フェスティバルノトーキョー、東京芸術劇場、2013年11月。

4. エグリントンみか翻訳、ラビア・ムルエ『ピクセル化した革命』、字幕、フェスティバルノトーキョー、東京芸術劇場、2013年11月。

5. エグリントンみか翻訳、ラビア・ムルエ、『雲に乗って』、字幕、フェスティバルノトーキョー、東京芸術劇場、2013年11月。

6. エグリントンみか翻訳、バック・トゥ・バック・シアター『ガネーシャ VS. 第三帝国』(演出ブルース・グラッドウィン)、字幕、フェスティバルノトーキョー、東京芸術劇場、2013年12月。『シアターアーツ』57号(AICT 2013年冬号)124-50頁

7. エグリントンみか翻訳、ダレン・アーモンド『牽引』、水戸芸術館現代美術アートセンター『ダレン・アーモンド展』映像字幕、2013年11月16日~2014年2月2日。

8. エグリントンみか翻訳、アンドレアス・ホーベルト作、ポストシアター『ヘヴェンリーベントー』、青山円形劇場、字幕、2012年8月。

〔その他〕
演劇批評、公演プログラム、インタビュー
(主要なもの 抜粋 計19件)

英語

1. Mika Eglinton and Andrew Eglinton, 'Dance, Kobe – dance!', *The Japan Times* 12 Feb 2014.

2. Mika Eglinton, 'Behold "surprised bodies in Kyoto"', *The Japan Times* 5 Feb 2014.

3. Mika Eglinton and Andrew Eglinton, 'Yokohama's annual feast of TPAM', *The Japan Times* 5 Feb 2014.

4. Mika Eglinton, 'What's the worth of words?' *The Japan Times* 29 Jan 2014.

5. Mika Eglinton, 'Woman's-eye "Merchant" duo reflects favorably on Shylock role', *The Japan Times* 15 Jan 2014.

6. Mika Eglinton, 'Show marks award of Kabuki Star's New Name', *The Japan Times* 18 Dec 2013.

7. Mika Eglinton, 'Takarazuka dances to a different tune', *The Japan Times* 27 Nov 2013

8. Mika Eglinton and Andrew Eglinton, 'Brecht's "Fatzer" Underground in Kyoto', *The Japan Times* 13 Nov 2013.

9. Mika Eglinton, '"Absence" makes Mroue's ghostly work even stronger.' *The Japan Times* 6 Nov 2013.

10. Mika Eglinton and Andrew Eglinton, 'Kyoto Experiment 2013: Do as you like', *The Japan Times* 16 Oct 2013, <http://www.japantimes.co.jp/>.

11. Mika Eglinton, 'A Midsummer Night's Dream adapted by Hideki Noda, directed by Satoshi Miyagi' *Shakespeare Studies* 50 (2013) 47-49. 査読付き

日本語

12. エグリントンみか、『祝！ 生誕450年シェイクスピア特集 グローカル・シェイクスピア』、『シアターガイド』(モーニングデスク、2014年3月、153頁)。

13. エグリントンみか、『英国演劇の現在形 後編『女性と非白人芸術監督の躍進』』、『シアターガイド』(モーニングデスク、2014年2月、159頁)。

14. エグリントンみか、『英国演劇の現在形

前編『芸術監督世代交代の波』、『シアターガイド』(モーニングデスク、2014年1月、159頁)。

15. エグリントンみか、「演劇的なものに対する愛憎と懐疑」、公演プログラム、フォースド・エンターテインメント『The Coming Storm—嵐が来た』3-4頁。

16. エグリントンみか、「移動する身体、複眼化する思考 矢内原美邦ロングインタビュー」、ACT (国際演劇評論会関西支部) 1頁、<http://act-kansai.net/?p=330> (2013年9月)

17. エグリントンみか、「永遠へ続く「1秒」を疾走/死闘する ミクニヤナイハラプロジェクト『前向き! タイモン』、ACT (国際演劇評論会関西支部) 2頁、<http://act-kansai.net/?p=330> (2013年9月)

18. エグリントンみか、「内からの攻め」、パフォーマンス評「KEX2012 高嶺格『ジャパン・シンドローム ~step2. “球の内側”』、ACT (国際演劇評論会関西支部) 1頁、<http://act-kansai.net/?p=330> (2013年2月)

19. エグリントンみか、「中屋敷法仁 インタビュー」2頁、<http://act-kansai.net/?p=291> (2013年2月)

6. 研究組織

(1)研究代表者

エグリントン みか (Mika EGLINTON)
神戸市外国語大学・英米学科・准教授
研究者番号：50632410